

第 1 回 仙北市角館地域審議会会議要旨録

- 1 . 開催年月日 平成 1 9 年 6 月 6 日 (水) 午後 1 時 3 0 分 ~
2 . 開催場所 仙北市角館西側庁舎 2 階 第 4 会議室
3 . 出席委員

会 長 佐藤勇太郎
副会長 経徳 紘一
委 員 柏谷圭一郎
" 草 薨 稔
" 中村 清悦
" 茂木千代太郎
" 山本 陽一
" 千葉 一明
" 青柳 良信
" 堺 研太郎
" 藤原 達朗
" 三杉真紀子

- 4 . 欠席委員

委 員 相馬 正男
" 藤枝智恵子
" 黒澤 美鈴

- 5 . 会議に出席した職員

角館地域センター長	藤川 実
企画政策課長	倉橋 典夫
企画政策課主査	阿部 聡
総合窓口課課長	清水 力
総合窓口課課長補佐	佐藤 俊雄
総合窓口課総務班長	本田 俊彦
総合窓口課主査	奥田 良一

開会午後 1 時 3 5 分開会。

会長 委員の与えられた役割を形あるものにできればと思っておりますとの挨拶後、今日に至るまでの経緯、地域審議会の役割の再確認と今回のテーマについて前段の段階で皆さんの話し合いをして頂きたいという趣旨の事務連絡があったことの報告

倉橋企画課長 本年度、どのように地域審議会を進めていくかについては、先ほど会長さんが話された経緯の通りでございます。協議の場で諮問のテーマがあった方が議論がしやすいのではという意見もありました。

主として全て諮問を設けるという段階まで、作っておりません。今日、それぞれの地域審議会で話された内容を十分に考慮致しまして、いろんな進め方を検討させていただき、市長と相談いたし諮問という形をお願いするのかを含めて、持ち帰って検討させてもらいたい。地域の審議会でございますので、多少、地域によってテーマが違ってくることもあるかと思えます。各、審議委員の皆様の意見をまとめて、提出させていただきたいとの説明

議長 本日、案件として掲げられた 2 つのテーマを含め全体的にご討議ということになる訳ですかと質問

倉橋企画政策課長 今回の 2 つのテーマは、今日のテーマとして企画政策課で提案させていただいたもので、今日は各委員の皆様からそれぞれいろんな考え方があると思うので、そうしたものを伺ってから必要であれば諮問するということです

議長 審議委員に発言を求める方向性が決まっていらないようですが、何について話し合いをするかということもですが、柱を決めることも含めて今日の話し合いを最初からということで、理解していいか。

倉橋企画政策課長 案件のテーマについて話し合っただけであればいいということですよ。

議長 当局より案件の説明をお願いします。

倉橋企画政策課長
資料を基に説明

(説明の要約)資料1は、観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を具体化するために角館地域の役割の中で、仙北市内のいろんな団体が活動を活発化しているが、NPOの活動状況については、次回以降、資料としてお伝えしたい。

体験学習では、主として角館の武家屋敷通り。

定住人口3万人確保と交流人口1,000万人の具体的方策の中では、人口の推移はこのままでいけば3万人を切るということになり、観光人口の推移では年間600万人ということで、これを1,000万人にしたいということ。

資料2は、3つの重点プロジェクトについて取り組もうということで、この4月から市役所内に重点プロジェクト推進室を設けて専任職員6人を配置して取り組もうとしている。

定住対策プロジェクトについては、定住人口3万人を確保したいが、具体的な取り決めに対しては、空き家の調査として田沢・田沢湖地区について昨年基礎調査を終わらせて、現在、詳細等取りまとめている。角館の白岩地区と西木の上檜木内地区に対しては、基礎調査をプロジェクトのほうで行なっている。6月10日までの調査期間ですので、これらをまとめまして、所有者の理解が得られた物件については、空き家情報バンクというものを立ち上げ、その中で情報公開したいと思っています。あわせて、遊休農地についても調査を行なっていきたい。

企業誘致については、現在、適した土地が西木に1ヶ所だけですので、市の所有する遊休土地を調査いたしまして、企業誘致のできる場所を確保したいと思っています。

テンミリオン計画プロジェクトについて、今年度、観光振興計画の策定ということで、観光課で観光振興計画の策定委員会を今月中に立ち上げる計画で、今年の12月までに、計画を作りたいと思っています。そして、大学関係ではスポーツ関係の合宿、あるいは、ゼミの誘致などの助成制度の検討もしている。それとあわせて、廃校になっている学校の活用についてもセミナーハウスとして活用できないか検討している。

ノースアジア大学と観光関係で、提携して来年度から観光学校を設置して県内の市町村と連携を取っていくことにしている。

議長 次に、案件の説明を含めて、感想、意見を求めるが、その前に、倉橋課長はどのように思っているのか

倉橋企画政策課長 1千万人に近づけるように3地区の特色を活かすことだと思う。

議長 各、委員の方々はこのテーマについて、どのようなイメージを持っているのか。

千葉委員 観光客の宿泊の流れとして、盛岡方面から来て田沢湖を通過し、男鹿ということで、流れ的には、宿泊率では、角館が1.9、田沢湖が26.5%ですが、同じ観光地なのにこれだけの差がある。たしかに宿泊施設もないが、宿泊していただけるようなイベント的な活動をするとか、あるいは民宿でテーマを持った体験型という目線も必要になってくるのでは。

議長 角館に泊りたいけど施設がないということもあるが、この問題での数値を伸ばそうとするならば、施設に対して、どのような具体策を講じるのかを考えなければ数字は上がってこない。大きなテーマという大事な要素でないか。人の行き来というイメージはどう思っているのか。ただ人が来てもらうだけに期待しているのか。

堺委員 全国的に仙北市という名前が知れ渡っていないので、これをどうするかということ、たとえばマスコットを作ってみるとか、歌を作ってみるとか、仙北市という名前がどこに行ってもわからない状況の中で、これは致命傷に近いという問題を解決しないといけない。それと仙北市産業というのは難しいのでは。

議長 それでは、今の話をベースにしてどういう形で討議して、角館イコール仙北市だということを定着させて行く方策があるかという課題が出てくる。

柏谷委員 仙北市ということを考えてとき旧3町の役割が違うのではないか

堺委員 仙北市という名前の空き家バンクを作ってもだれもこない状況になるし、仙北市という知名度を上げないとどうしようもないという問題になってくる。

山本委員 交流拠点都市といっても仙北市の市民は考えていないと思うし、住民の人達が意識してやっていかなければならないので、住民の人達が意見を出し合える場というものをもっと提供しなければいけないと思う。

中村委員 今回、国体があり47都道府県の選手・役員が来ますし、少年、高校生も来ますので、高校生の知名度をもっていけばいい機会でないかなと思うので、国体の力を借りて仙北市が即角館じゃなく、1地区の田沢湖・西木・角館として仙北市の名前の知名度を上げるには最高のチャンスではないか。

草薙委員 仙北市という名前を売り出すには、市の花・木・鳥を一般の住民

からアイデアを募集してみたらいかがと思います。全国的に発信しているパンフレット等も見ますと角館という名前は売れていますので国体はいいチャンスですので、いいアイデアを出していただければいいのではないかと思います。

千葉委員 ホームページ上で、アクセス回数が出るので特殊な数(たとえば5555)あなたは何人目ですと出るので、当たった人は市の方へダウンロードしてもらいアクセスすれば、市の物産を送ることもできると思う。

青柳委員 この地が仙北平野ということで、仙北の米とかの農産物をPRし仙北市の大規模な直売所で、観光と合わせたらいいと思う。

それと交通指導隊をやっていますが、桜まつりの際に観光客より駐車場が少ないとの話が聞かれるので、テンミリオン計画というのもあることですので、町民から協力をもらって観光客の駐車場問題を考えていかないかためではないか。

副会長 これからは、仙北市という名称を一からPRし考えていかなければならないと思います。それから年間の観光客では、半分が角館地区に集中しているわけで、通過型にもなっているし、これからは通年型で観光客を誘致する対策をとらなければならないと思うし、ひとつひとつの積み重ねが結びついてくるのではないか。

藤原委員 案件のテーマの中で、今の仙北市という名前について、わたしは、単純に田沢湖・角館の名前は知れ渡っているので、前面に出しても不都合はないのではないかと思いますので、あえて仙北市として出さなくてもいいのではないか。それをふまえてテーマの交流拠点都市ということを考えるときに、自分の体験上、行きたい所というのは特に何にもやっていない所だと常々思っていますし、旅先で何を求めているとか、あくまでも私個人の考えですが、人と単にふれ合う事が大事だし、住んでいる人と話をしたりするのが一番面白かった。もう一度行ってみたいという部分もあったと思うので、いかにも観光に行きますというの、特にこの時代、ミスマッチなような気がします。ただ、それでは、何かの策を講じないと、何をやってもしょうがないので、それをいやみにならないようにしなければならぬと思う。旅行・旅・観光というのを考えるときに、いつも思うのは、そこに住んでいる人が、普段の生活に触れたいと思って旅をする人が多いのではないかと思いますので、せっかくある角館・田沢湖という名前は、ストレートに生かすべきだと思います。

議長 皆さんが話されたことを読み取って「最高の方策だ」「すべからずプラスにつながる要求を備えている」ということで、それを試みる必要があるのでは。それを形として政策にどう折り込むかと言う事がなければ、政策そのものが文章の飾りに終わってしまうから、大事なことを皆さん発言されていると思います。

茂木委員 仙北市の角館・田沢湖の知名度を上げるのが必要だし、計画では、観光客を増やしていくという目的であり、その為のいろいろ対策を練っていくことで、観光地として角館・田沢湖を連携するのはたしかに大事なことであるが、通年を通してのお客さんと呼ぶのが、一番大事なことだと思われ、通年で角館に来ているのは武家屋敷だと思いますが、角館の武家屋敷の何がいいかということですが、昔から武家屋敷の中で生活をしている形態が残っているから人気があるのではないかと。現状ではこれから先、武家屋敷商店街だと言われている中で行ってみたいと将来において思うのか、そして、角館に来てお土産を買うにくる人達ではないと思う訳で、角館に来ていいところを見たうえで、記念にお土産を買っていくということで、肝心の物事を忘れてしまっていると思われ、この先、すたれてしまうのではないかと。そういうことが、現実に戻ったときに、観光地の保存ということも計画の中に入ってくるのではないかと。思う。

議長 観光地として、見せる、売るという観光形態の中、地域全体の観光拠点都市として生き抜くならば、滞留型を長くする為には、武家屋敷プラス周辺とのタイアップをすることができるのであれば、方策として考えていかなければいけないのでは。

堺委員 国道46号線は、観光道路と言っていいと思うがこれを活かさない手はないし、こういったところに大型の直売所を作れば、観光客や地元の人達も喜ぶのではないかと。

青柳委員 直売所は観光客相手だけでも駄目だと思われ、地元の人を買わなければ観光客も買わないと思うから長続きしない。結局、観光産業として、観光客と地域で生活をしている人達が一番大事になってくるのではないかと。そこで3万人計画の関係もありますが、観光産業に新卒者を雇用できるのは多少なりとも難しいし、田沢湖のホテル等でもスキー客は減少している中で、維持するのが大変なので、新卒者を雇用していない状況であるから、その中で生き残るアイデアを出していかなければならない。

堺委員 直売所を設置したときに、トレードマークみたいなものを作れば、

仙北市としての確認もできるし楽しいのではないか。それと、キャラクターの人形など、直売所で展開できれば違うのではないか。

茂木委員 聞いた話ですが、国道沿いに産地直売所を設置するという話の中で、ある程度範囲を広く組織的なものの中に入っていなければ、一年通しては続けられないという話を聞いたことがあります。やはり地元のお客さんが行って常に何かがあるという役割をしてくれるところがなければ、続けていけないと思う。

三杉委員 観光に農家を組み入れていく方法もあると思うし、仕入れなど係わっていければいいし、野菜の無農薬等で売ると言うことも考えていければいいのではないか。

議長 ここまで話をされた中で、市の方でどのような取り組みをしているかということですが、まず、観光というものを大幅に期待しながら現状を拡大することを考えているか。次に仙北市の全国 PR について、現状としてどう考えているか。次に観光に農家を取り入れるということに対して、たとえば、農家レストランとか田舎民宿などあるが、特定のチャレンジ精神がある人だけでなく一般農家、次に一般住民を取り組んだ観光の角館をどうやって行こうとする市の方策を考えているのか。

倉橋企画政策課長 まず一点目の知名度についてですが、仙北市という名前が全国的に知られていないと言うのはその通りだと思います。今日もいろいろご意見出していただきましたので、市として、観光用の PR なりホームページ上でもそうですけれどもチラシ等についても角館、田沢湖に仙北市を入れるようにするとか、十分配慮して、市として取り組み方を決めたいと思います。

次に観光に農家を取り組むということでは、今、農政課を軸に直売所 20ヶ所ちかく有るそうですが、そこを回りまして調査を実施しています。それを取りまとめて直売所の方々、個人的に設置も多いようですが、連絡協議会的なものを開催する方向で、今、動いていますし、現在やっている農家を回って仙北市で、まとまった直売所を系統的にもできないかということを作成し、候補者を限定したいと思っています。また、観光とは違うかもしれませんが、給食にも地場産品を取り入れたいということもですが、地場産品を利用し、コンスタントに取り入れていきたいし、あわせて旅館、ホテル等の農産物の供給ルートを、希望したいですがこれに関してもエリアが田沢湖・西木が広がった分だけ供給できるものが増えたと思いますので、実態を増やしていきたいと思っています。

次に宿泊客についてですが、具体的に全体的に観光 PR をやってきた中で観光振興計画策定をしているので、1千万人を具体的にどのように増やすのか観光振興計画の中で取り組んでいかなければならないが、全体的な観光客数と宿泊数は前より減っていると思います。角館は宿泊数が少ないというご意見があるかもしれませんが、田沢湖畔・田沢湖高原の全体の宿泊客が落ち込んでいる状況です。その原因がどこにあるか、全体的に観光客が落ち込み傾向にあるということを十分考慮して、振興計画を考えていかなければならないと思います。

柏谷委員 スキー客がここ数年、落ち込んでいるが、国民休暇村はどうなっている。

倉橋企画政策課長 国民休暇村のスキー場は経営不振ということで確認しているが、休暇村は休止、スキー場は辞めるということの話でした。

柏谷委員 田沢湖高原で、スキーの宿泊客が減少している現状を考えないといけないのでは。

副会長 角館の桜祭りの場合ですけれども、毎年15万位の観光客が来ていますが、開花情報等どのように伝えていけばいいのかも考えていかなければならないと思います。次に定住対策プロジェクトの中で、病院での小児科の体制も夜間は組合病院に廻されるとか、土・日は先生がいないということで、お産をする人が心配で、不安を持っている若いお母さんたちがいるので、環境整備を重点的にやっていただかないと若い人達の U ターンなど考えたときに不安ですので、整備を考えていかないといけないのでは。

草薙委員 希望というか、ひとつは新幹線こまちで観光客が角館の玄関口に到着した時、桜が1本も見えないと、「桜がどこにあるか」「武家屋敷はどこだ」と言うことになるので不安になります。たとえば、10年計画で花場山等に山桜を植えたらいいのではないかと。次に、これも希望ですが、子供たちの夢と言うのは大きなものがあって、大人以上のアイデアをたくさん持っているはずなので、高等学校の統合問題もあるわけですが、文化都市をアピールする機会が必要だと思いますので、次世代の取り組みをもっと考えてほしい。

議長 定住人口にしる、観光客のテンミリオンにしる、目標数値というものがいわゆる目標希望数値であってなにがなんでもその数値を死守するという熱意がないいわゆる努力目標としか受け止めかねない。それを確保しないと

仙北市自体の命運が係わると言うくらいの目標の柱があるならば、それが希望数値で終るようでは絶対に現実味がない。本当に市の3万人の将来の命に係わる大問題であるので、いかにしてそれを数値で増やす政策、減るものを歯止めする政策を真剣に取り組んでもらう対応の体制が必要だと思えます。その中で、人口が減る問題に対して成人病対策があげられると思うが、市の対策もですが、市民も検診に対しての意識を強く持つ対策を考えなければならぬのでは。

堺委員 定住人口の話について高校生が地元で就職をするのが非常に少ないということもある。その中で、高校の方針として進学校という考えを取っている。高校の方針に従って「あなたは、専門学校へ行きなさい」とどんどん出されて県外に行ってしまうという傾向が非常に強いという学校の現状だと思う。学校だけでなく市がプロジェクトを作って、その人達を地域に残す為に親身になって考えないといけないし、高校が2校あるものを、1校にするという動きに対しても強力な体制をいままで以上に推進してやっていただきたいと思えます。18歳の就職する場所を行政が手助けするようなことをしなければならぬのでは。

茂木委員 堺委員の話に付け加えたいのですが、若い人達が親から離れアパートに住む人達がいるわけで、いろいろ事情もあるでしょうし、職場の関係もあると思うが、角館以外のアパートに住む人もいるので、近場に職場がないという現状であるので考えていかなければならないと思う。

議長 いままでこのテーマで話し合われたことを含めて、これからもこのテーマで、もう少し絞って話をするか、また別のテーマで、話をするか伺う。

青柳委員 人口の確保というところで間違いなく減少している。全国的にもいろんなアイデアがいっぱい出てきていると思う。市営の空きアパートを条件的に入りやすいように整備するとか、3万人は確保していかなければと思う。あとひとつ、角館・田沢湖が遠く感じるので、道路整備のことも考えてもらいたい。

堺委員 市の職員の方々が仙北市総合計画の原案を作成した時、真剣に作っているとは思えない。どこにアイデアがあるか市の方向性についても何を目玉にし、どうやって、みんなが思っているような真摯な力が感じられない計画方法を示しているような感じがしているので、自分たちも頑張るので、もう少し何とかしたいという気持ちが感じられるアイデア等、話し合っただけで政策を遂行していけばいいと思う。

山本委員 分庁舎方式では、今の意にそぐわなくなっているのではないか。

柏谷委員 他の2町でも同じ話題が出ているのではないか。

倉橋企画政策課長 同じ資料でやっていますので、同じ視点で意見を出していただいています。当然、地域差は若干ありますが基本的には同じテーマで話し合われています。

柏谷委員 その中で、町の人達の意見ということで、根本的に市のことでいわけですが、どこがそういう形を出していくのか。

倉橋企画政策課長 そういう形を取るとすれば、その年度ごとにある一定のものを出していただければいいのでは。

柏谷委員 最終的にひと地域ごとのものの考えを考えいってもらいたい。

中村委員 本委員が言ったように、それぞれ譲歩するとか、そういうことを考えたら、3地区同じく審議したほうがいいのでは。3地区別々でなくそのひとつだけを審議したらいいのでは。

茂木委員 ほかの2地区で分庁舎方式について話はでたのか。

倉橋企画政策課長 田沢湖では話はできませんでした。

中村委員 テーマはひとつだし、その3地区の審議会でもテーマをひとつにされないものなのか。

倉橋企画政策課長 できれば、そういう方向でしてもらえればいいのでは。

中村委員 もしそういうことがあるとすれば、かならず田沢湖 別、角館 別、西木、別でなく、各3地区のどこでも話し合ったとしたら、角館地区でこのようなテーマがでたら3地区同じテーマにして話されたらいいと思う。

柏谷委員 角館の意識の中にその問題があるかもしれないので、そのことについて考えていかなければならないのでは。

茂木委員 絞って、分庁舎方式について、話し合うしかないのでは。

中村委員 建てる話の中では、決定してから出ないと話しはしなくてもいいと思うし、まず建てるという話はまずいだろうと思う。

倉橋企画政策課長 私は、今日のテーマ、次のテーマをどうするかと言えば、一般的な話題ですけれども、先ほど山本さん、三杉さんから出た分庁舎方式について、取り上げてもらいたいということです。

企画政策課の方で、今年度、予算の中で新庁舎整備の調査費を初めて計上しまして、本庁舎方式にした場合の組織機構をどのようにするか調査検討会を予定していますが、資料が整った段階で審議委員会の方々より意見を伺う機会を持ちたいと思っていますが、今の段階としては具体的なものはないです。

柏谷委員 職員組合では話は出ているのか。

阿部企画政策課主査 職員組合内部ではまだ話し合っていないです。

倉橋企画政策課長 お願いするときには、3地区の審議会に諮問という形で、やらなければならないと思っています。

議長 次回のテーマについては、どうなっているのか。

倉橋企画政策課長 審議会の会長さんなり地域センターとよく協議してからと思っています。

議長 市長さんの方で具体的にまとまっていないから諮問の段階に至ってないけれども、その要件が得られるならば審議会になげかけたいということです。それでは、今日の案件に示されていることについてもう少し突っ込んで話をしてもよろしいか。

倉橋企画政策課長 今日の案件でできればそうしていただければ。

議長 心配の庁舎について市の方から問題の提起があるらしいので、それまでの間は今日の案件(1)(2)について、次回も地域審議会を開催したいと思います。

倉橋企画政策課長 合同研修会についてですけれども、3地区の主要な施設を回りたいと思っています。日程的には、国体前の7月頃予定しております。次回の審議会の日程についても合わせて地域センターと打ち合わせて行いたいと思います。

佐藤会長 次回も今回と同じテーマで今日の話を含ませた上で行いますので
よろしく願いいたします。

午後 4 時 0 6 分 閉会

午後 2 時 5 0 分、所要のため千葉委員、退席